

《今週のトピック》

【フィリピン】

☆ マニラ首都圏で2日間に3件の射殺事件、いずれもバイク使用

7月22日から23日にかけて、マニラ首都圏で市民がバイクに乗った人物に射殺される事件が3件相次いだ。

まず22日朝、カロオカン市バラングイ（最小行政体）67のコレドロ通りで、出張買取業を営む女性（39歳）が、トライシクル（サイドカー型バイクタクシー）に乗って一番下の娘を学校に送り届けた帰りに、後方からバイクに乗って近づいてきたマスク姿の男に拳銃で頭部を至近距離から撃たれて死亡した。

犯人はそのまま逃走し、女性と同行していた長女や運転手にけがはなかった。

女性の夫によると、女性は複数の個人から借金があり、その返済をめぐってトラブルになっていた。

続いて22日夜、タギッグ市バラングイ・ニュー・ローワー・ビクタンに住む男子高校生（17歳）が、自宅前に出て携帯電話に届いたテキストメッセージを読んでいたところ、複数の男がバイクに乗って近づいてきて、男子高校生は至近距離から拳銃で頭部を撃たれて死亡した。

さらに23日夜、ケソン市内のノース通り上でジプニー（乗合タクシー）を運転中の男性が射殺された。犯人はバイク1台に乗ったヘルメットとマスク姿の2人組で、後部座席の男が拳銃を2発発射し、うち1発が命中した。ジプニーはコントロールを失って道路脇のSUV車に衝突して停車したが、ジプニーに乗客は乗っておらずけが人はなかった。

被害男性はジプニー運転手の権利擁護団体「ストップ・アンド・ゴー輸送連合」の副会長で、業界では名の通った人物であった。同連合はジプニー運転手の福利厚生などをめぐって政府機関と対立することも多く、男性には昨年来、殺害予告めいた脅迫が届いていた。一方、男性の親族は、同連合の役職を巡る対立や嫉妬が事件背景にあるとの見方を示している。

この3件は、いずれも犯人が標的にバイクで接近して一撃離脱するという手口を使っているが、これはフィリピンで昔から多発している殺人の典型的な手口である。

このような犯人は同国で「バイクに乗った容疑者（MRS : motorcycle-riding suspects）」と呼ばれている。

MRSによる凶悪犯罪が多発している現状を受け、首都圏パッシング市の警察は最近、民間のバイク愛好者らによる「パッシング市対MRSパトロール隊」を試験的に

編成した。7月21日には、同市の市役所や警察と同市のライダー・クラブ30団体（会員総数約1,000人）の会長らが覚書（MOA）に署名し、従来は暴走族と混同されがちだったバイク愛好者が、MRSなどの犯罪者に関する警察の「目と耳」としてのパトロール活動に従事することになった。

同パトロール隊は、緊急事態発生時に警察支援活動に動員されるほか、交通法規の遵守や交通事故防止に関する啓蒙活動も行うという。

【JSSコメント】

- ① マニラ首都圏警察によると、昨年はMRSの関与した殺人が50件、傷害致死が8件発生している。2017年比で前者は85%、後者は67%減少しているものの、MRSによる殺人は依然として多いことに変わりはない。
- ② MRSの多くは報酬のために殺人を請け負う犯罪組織のメンバーで、標的との直接的な人間関係がないため、警察による逮捕率が極めて低いことも問題になっている。首都圏で昨年発生した（殺人未遂や強盗なども含む）MRS関与の刑事犯400件のうち、容疑者が逮捕されたのは120件に過ぎない。MRSによるひったくりや強盗も頻発しているので、路上では近づいてくるバイクへの警戒が必要である。

《各国リスクレポート》

【中国】

☆ 山西省太原市の生鮮市場付近で女性が強盗被害

7月12日午後4時30分頃、山西省太原市にある生鮮市場付近で、電動自転車に乗っていた女性（30歳）が、前方から歩いてきた男にナイフを突きつけられ、身に付けていた1万元相当（約15万7,000円）の金製ブレスレットと現金600元（約9,400円）を奪われた。

女性から通報を受けた同市公安局は、現場付近の監視カメラ映像を分析して、男が犯行後にタクシーで逃げたことを突き止め、当該タクシーの走行記録などから男の足取りを追い、翌13日午後5時頃に市内のホテルで逮捕するとともに、犯行に使用されたナイフを室内から押収した。

犯人の男（42歳）は、女性から奪った金製ブレスレットを既に売り払っていたが、警察が買取業者から回収して女性に返却した。

【JSSコメント】

- ① 生鮮市場では、新鮮な食品がスーパーよりも安く購入できるが、スリやひったくりが多発しており、強盗目的で利用客を待ち構えている犯人も周辺に潜んでいる。
- ② 金製のブレスレットやネックレスは故買屋で簡単に換金できるため、最も狙われやすいので屋外では身に着けない方がよい。

☆ 広西チワン族自治区南寧市の高速道路出口で強盗が続発

広西チワン族自治区南寧市内と南寧国際空港を結ぶ「南寧空港高速道路」と側道を結ぶ立体交差の出口付近で、6月頃から数人組による武装強盗が続発した。

被害者の1人は、車を運転中に立体交差を減速して通り過ぎようとしたところ、道路沿いにいた男達に停車を命じられ、ナイフなどで脅されて、所持していた金品やトラックの荷台に積んでいた農作物を強奪された。

同市公安局は捜査を進め、7月14日正午頃に犯行グループがアジトとしていた市内のホテルとアパートを一斉摘発して一味の5人を逮捕したものの、残る1人を取り逃した。取調べに対して主犯格の男は「積荷を奪って転売する目的だった」と述べ、5件の犯行に関与したことを自供した。

【JSSコメント】

- ① 南寧市は中国内陸部とベトナムなど東南アジアを結ぶ交通の要衝であり、対ASEAN貿易の玄関口となっている。
- ② 高速道路や山道などでターゲットとした車を停車させて乗員から金品を奪ったり、カージャックを行う犯罪行為は「車匪路霸」と呼ばれ、以前は広東省をはじめとする中国南部でも多発していた。

【フィリピン】

☆ 白昼のセブ市で警察が強盗未遂犯を追跡の末に射殺

7月22日午前11時頃、フィリピン最大のリゾートとして知られるセブ市の中心部で、警察官が強盗未遂犯の男を銃撃戦の末に射殺する事件があった。

男は、同市バランガイ（最小行政体）ロレガ・サンミゲルのイムス大通りで清涼飲料水運搬車の前に立ち塞がり、運転手に拳銃を突きつけて運搬車を奪おうとしたが、運転手が拒否して膠着状態になり、背後に渋滞ができた。

近くで検問を行っていた警察官が渋滞原因を見に来たところ、それに気づいた男は走って人込みの中へ逃げ、警察官はその後を追いかけた。男はバランガイ・テヘロのMJクエンコ通りで通行中の車を乗っ取って逃げようとしたが、そこで警察官に追いつかれて銃撃戦になり、その場で射殺された。周囲には多数の通行人がいたものの、幸い誰も流れ弾を受けなかった。

射殺された男は地元でトラブルメーカーとして知られており、犯行時も麻薬の影響下にあった可能性が指摘されている。

【JSSコメント】

- ① フィリピンでは、ドゥテルテ政権が強硬に推進する麻薬・犯罪撲滅政策（麻薬戦争）が奏功して全国的に凶悪犯罪が減少しているものの、セブはあまり治安が改善しておらず、各種の凶悪犯罪や血なまぐさいギャング抗争が依然として多発している。
- ② 昨年8月には、在留邦人の女性会社経営者（71歳）が市内で車を運転中、バイクに乗

った2人組に射殺された。同事件は請負殺人で、実行犯とそれを雇った夫(77歳)は現在公判中である。

【カンボジア】

☆ 首都で女性が携帯電話強盗に抵抗して重傷

7月16日午前1時頃、首都プノンペン中心部のドンペン区にあるトンレサップ川沿いのリバーサイドエリアで、女性が男2人組に刃物で襲われて腰に重傷を負った。

警察によると、被害女性が同区にある目抜き通りのシソワット通りで携帯電話を操作していたところ、目の前に車が停車し、男2人が降りてきて話しかけてきた。

女性がそれに応じていると、2人のうち1人が突然、女性の持っていた携帯電話を奪おうとした。女性が奪われまいとして必死に抵抗すると、もう1人の男が刃物で女性の腰を切りつけ、2人組は携帯電話を強奪して車に飛び乗り逃走した。

女性は腰を深く切りつけられて大量出血したが、現場近くの病院に緊急搬送され、生命を取り留めた。警察は、犯人が乗っていた車の車種やプレートナンバーなどの情報を公開し、市民に情報提供を呼びかけている。

【JSSコメント】

- ① プノンペンのリバーサイドは外国人向けレストランやバーが立ち並ぶエリアで、観光客狙いのスリ、置き引き、ひったくりなどが多発しており、特に夜は被害のリスクが高まる。
- ② ひったくり犯であっても、被害者に抵抗されたり追いかけられれば、本件のように凶悪な行動に出る場合が少なくないので、万一被害に遭ったら決して抵抗せず、犯人の特徴や逃走方向などを覚えて警察に通報するのみにとどめるべきである。

【タイ】

☆ 宅配便による麻薬運搬が増加、警察が業者に検査強化を指導

国家警察庁麻薬制圧局(NSB)は7月22日、民間の宅配サービスを利用した麻薬運搬・取引が増加している実態を受けて、政府の関連諸機関と宅配業者14社の代表を集めて対策会合を開いた。

同会合の席上、NSBを所管するチャラムキアット・スリウオーラカン国家警察庁副長官(警察大将)は、宅配サービスを利用した麻薬運搬を防止する目的で、関連する法律や法規の改正を検討中であることを明らかにした。

その上でチャラムキアット副長官は、宅配業者が配達物の中身に対する適正な検査を怠ったり、実際に麻薬を配達したりした場合、営業許可証の剥奪を含む厳しい罰則が適用されることになると警告した。

また、宅配業者が同一の麻薬組織から委託された麻薬運搬を繰り返した場合は、その業者の責任者に最高で禁錮5年と罰金5万バーツ(約17万5,000円)の両

方、またはいずれかの刑罰が科せられる可能性がある。さらに、その業者は資金洗浄対策室（AMLO）の取調べも受けることになるという。

同副長官は、「宅配業者は配達物の移動プロセスにおける仲介者であり、自分達が何を運んでいるのか正確に把握する義務がある」と指摘した。

【JSSコメント】

- ① NSBを中心とする関連機関は最近、車で運搬途中の大量の麻薬を相次いで摘発しており、それを受けて麻薬組織が宅配サービスを使った麻薬運搬の手口を従来よりも多用するようになってきているという。
- ② 宅配業者側からは、「発送者から訴えられるリスクがあるので、不審な宅配物を開封してまで調べることはできない」との意見が以前から出ている。これに対してチャラームキアット副長官は、「そういう言い訳こそが麻薬組織に宅配便を利用される素地を作っている」と断じ、開封してでも宅配物の内容を調べることの必要性を強調している。

【マレーシア】

☆ 首都圏で女性が男女4人組に両手を縛られ金品を強奪される

7月22日午前10時48分頃、首都クアラルンプール北西郊のセランゴール州ゴンバック郡ラワン地区タマン・セティア・ラワンにあるインド系の墓地の前で、マレーシア人女性（66歳）が粘着テープで両手を縛られた上に目隠しされた状態で放置されているのを通行人が発見した。女性は最寄りの病院に搬送されて精密検査を受けたが、外傷などもなく無事であった。

ゴンバック郡警察署のサムソル・マアロフ署長によると、被害女性は同日朝、外出先からラワン地区内の自宅へ帰る途中に、見知らぬ男女から「車で家まで送ってあげる」と誘われ、彼らの車に乗り込んだ。

車には他にも男2人が乗っており、一味は近くのカフェの駐車場に車を止めると、突然粘着テープで女性の両手を縛り上げた上、顔面もテープでぐるぐる巻きにして、女性が所持していた約3,000リンギット（約7万9,000円）相当の金製の指輪2個とイヤリング1組、現金110リンギット（約2,900円）などを強奪した後、墓地の前で女性を車外に放り出して逃走したという。

【JSSコメント】

- ① 同郡警察署によると、女性は病院で検診を受けた帰りに襲われたことから、一味は病院付近でターゲットを物色していた可能性が高い。
- ② 首都圏では女性を狙った強盗が多発しているが、特に早朝や夜間は治安が悪くなるので、徒歩での外出は極力避ける必要がある。

【インドネシア】

☆ バイク窃盗団の元締め2人を逮捕、首都圏で52件の犯行

ジャカルタ首都圏警察は7月19日、東ジャカルタと西ジャワ州ブカシ市でバイク盗を多発させている窃盗団の摘発を進めていることを明らかにした。

首都圏警察のアルゴ・ユウォノ報道官（警察大佐）によると、首都圏警察の特別捜査班は16日に、バイク窃盗団のリーダー格の男2人（33歳と38歳）を、西ジャワ州ボゴール県チビノン郡内の民家で逮捕した。

その際、捜査班は2人の潜伏先から現金、T型レンチなどの工具多数、バイク2台、バイク用の偽造ナンバープレート数十枚などを発見、押収した。

2人のうち若い方は、スマトラ島ランプン州を拠点にするバイク窃盗団の元締めで、首都圏での犯行の計画を立てた上で必要な資金、犯行時に使用するバイクと武器（刃物）、T型レンチを含む工具などを供給していた。また、盗んだバイクを売り捌くルートやバイヤーとのコンタクトも行っていた。

もう1人の男も元締めとしての役割を担っていたが、犯行を指揮するだけでなく、時には実行犯グループに加わることもあったという。

この窃盗団は過去2か月間にブカシ市の35か所、東ジャカルタの15か所で52件のバイク盗を働いたと見られている。

特別捜査班はこの2人に対する取調べなどを通じて既に窃盗団のほぼ全容を掴んでおり、現在はバイク盗の実行メンバー達の行方を捜索している。

【JSSコメント】

- ① ジャカルタ首都圏は鉄道が未発達なため、庶民の移動手段としてバイクの需要が非常に高く、それだけに盗難も頻発している。
- ② アルゴ報道官によると、この2人は刑法第363条（集団窃盗）違反に問われており、刑罰は禁錮5年以上である。

☆ 西スマトラ州パダン市で独立記念日狙いの爆破テロ計画を摘発

インドネシア国家警察のドゥディ・プラセティヨ報道官（警察准将）は7月23日、国家警察の対テロ特殊部隊「第88分遣隊（Densus88）」が17日にスマトラ島西スマトラ州の州都パダン市で、「イスラム国（IS）」系の地元過激組織「ジャマー・アンシャルット・ダウラ（JAD）」のメンバーの男を反テロ法違反の容疑で逮捕したと発表した。

この男は、8月17日のインドネシア独立記念日に、市内で実施される独立記念式典の会場や同州警察本部を爆破して警察官らを殺傷し、同時に同本部から武器を強奪する計画を立てていたという。

対テロ当局はこれらの計画に関連して、男に複数の共犯者がいると見て、男の背

後にあるネットワークの解明に向けた捜査を行っている。

【JSSコメント】

- ① JADは、現在のインドネシア政府を打倒してシャリーア(イスラム法)を厳格に適用した「真のイスラム国家」を樹立することを目標にしており、現政府の権威が示される独立記念日に反政府テロを画策する傾向がある。また、Densus88をはじめとする警察に多数の同志を逮捕・射殺されていることから、警察に対する報復テロを企図するケースも非常に多い。
- ② 独立記念日には全国各地で関連の記念行事が行われるが、その会場には近づかない方が無難である。また、特に同日は警察署や警察官詰所の周辺にも行かないことをお勧めする。

【ネパール】

☆ モンスーンの豪雨で各地に水害多発、98人死亡

ネパール西部の第5州グルミ郡で7月23日、豪雨による大規模な土砂災害が発生し、8人が死亡した。これにより、今年6月のモンスーン到来以降、洪水や土砂災害などによる死者が全国で98人に達した。行方不明者も40人に上っているほか、負傷者は3,300人に上っている。

ネパールでは7月～8月が雨季のピークであり、7月に入って全国77郡のうち31郡で水害が確認されている。

同国道路局によると、都市間を結ぶ幹線道路でも50か所以上で路面の陥没や崩落などが発生しており、一部が通行止めとなっている。

【JSSコメント】

- ① モンスーンは9月末頃まで続くため、引き続き洪水や土砂災害への厳重な警戒が必要である。この時期は陸路での地方出張を避けた方がよい。
- ② 洪水時は消化器感染症や皮膚から感染するレプトスピラ症が流行するほか、水が引いてからも蚊が媒介するデング熱などが流行するので、各種の予防策が必要である。

【スリランカ】

☆ 非常事態宣言が3回目の延長

スリランカ政府は、4月21日の連続自爆テロ（258人死亡、約500人負傷）後の4月23日に発令した非常事態宣言を、7月22日付けで1か月間延長した。

非常事態宣言は1か月の期間で発令され、国会の承認を得れば何度でも延長可能であり、今回の延長は3回目である。

4月の事件以降にテロは再発しておらず、国内治安は保たれているが、一方で多数派の仏教徒と少数派のイスラム教徒との対立が依然として解消しておらず、警戒態勢が維持されている。

非常事態宣言に伴う日常生活への支障は特にないものの、治安機関は容疑者を令状なしで逮捕・拘留可能である。

シリセナ大統領は7月16日、「連続自爆テロに関与した者は全員逮捕された」と改めて発表した。しかし、「捜査は依然継続中」として、犯行組織の完全解明には至っていないことを示唆している。

【JSSコメント】

- ① 来る8月5日～14日には、スリランカ最大の仏教祭「エサラ・ペラヘラ」が同国中部の古都キャンディで開催されるが、祭りの人出がテロの標的になったり、イスラム教徒と仏教徒との間で騒動が発生する可能性も危惧される。
- ② 連続自爆テロの犯行組織「ナショナル・タウヒード・ジャマアト(NTJ:祖国と唯一神集団)」は、キャンディや東部州で第2、第3のテロ攻撃を計画していたとの情報もある。地方へ赴く際は最新情報を確認するなどして慎重に行動する必要がある。

【パキスタン】

☆ バルチスタン州クエッタで爆弾テロ、21人死傷

7月23日夜、バルチスタン州の州都クエッタのイースタン・バイパス付近（市中心部の南約4km）にある医療品店前で自転車爆弾によるテロが発生し、3人が死亡、18人が負傷した。3人が危篤状態で、死者はさらに増える可能性がある。

市警察の爆発物処理班によると、医療品店前に駐輪中の自転車に仕掛けられた遠隔操作式と見られる推定爆薬量2kg～3kgの簡易爆弾（IED）が爆発した。

被害者は医薬品店の従業員や店の内外で座っていた客などで、隣接する3店舗の窓ガラスなどが破損したほか、駐車中の車両3台、バイク2台も損傷した。

7月25日時点で犯行声明は出ていない。

【JSSコメント】

- ① 同州では、国軍・警察や教育施設などを狙った爆弾テロ・武装襲撃が以前から続発しているほか、犯行目的がはっきりしない無差別テロも市場などで相次いでいる。
- ② 同州やカイバルパクトウンクワ州では安全確保が困難なので、今後も渡航を避けるべきである。また、両州以外においても街頭警備中の治安部隊、軍・警察の関連施設、政府庁舎、宗教施設、人が集まる市場などに近づかないことをお勧めする。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。